

Relationship between attention deficit hyperactivity disorder and highly sensitive person traits during the emotional Go/NoGo task: A near-infrared spectroscopy study

感情 Go/NoGo 課題にみる ADHD 特性と HSP 特性の関係 NIRS 研究

松石佳奈 熊本大学大学院社会文化科学教育部

安村 明 熊本大学大学院人文社会科学部

注意欠如多動症 (ADHD) の中核症状である反応抑制の障害は、生活の質全体に大きく影響する。それにもかかわらず、そのメカニズムは不明なままである。我々は、ADHD 特性と繊細な人 (HSP) 特性の潜在的な相関関係を探るために、大学生を対象に感情 Go/NoGo 課題を実施した。階層的重回帰分析の結果、怒りの表情に反応する際のコミッション・エラーの増加は、ADHD 特性だけではなく、HSP 特性によってより説明できることがわかった。さらに、右前頭前野の活動の亢進が、こうした反応抑制の困難と関連していることが示唆された。本研究の結果は、先行研究の結果と一致しており、ADHD 特性が怒りの表情を伴う課題における反応抑制を悪化させることを示しているが、ADHD 特性だけと比較して、HSP 特性が果たす役割が大きいことを強調している。以上のことから、顕著な ADHD 特性を持つ人を支援する際に、ADHD 診断の有無や ADHD 特性の強さを考慮することに加え、HSP 特性に注目することの重要性が示唆された。

キーワード: 注意欠如多動症 (ADHD)、繊細な人 (HSP)、反応抑制、感情 Go/NoGo 課題、近赤外分光法 (NIRS)